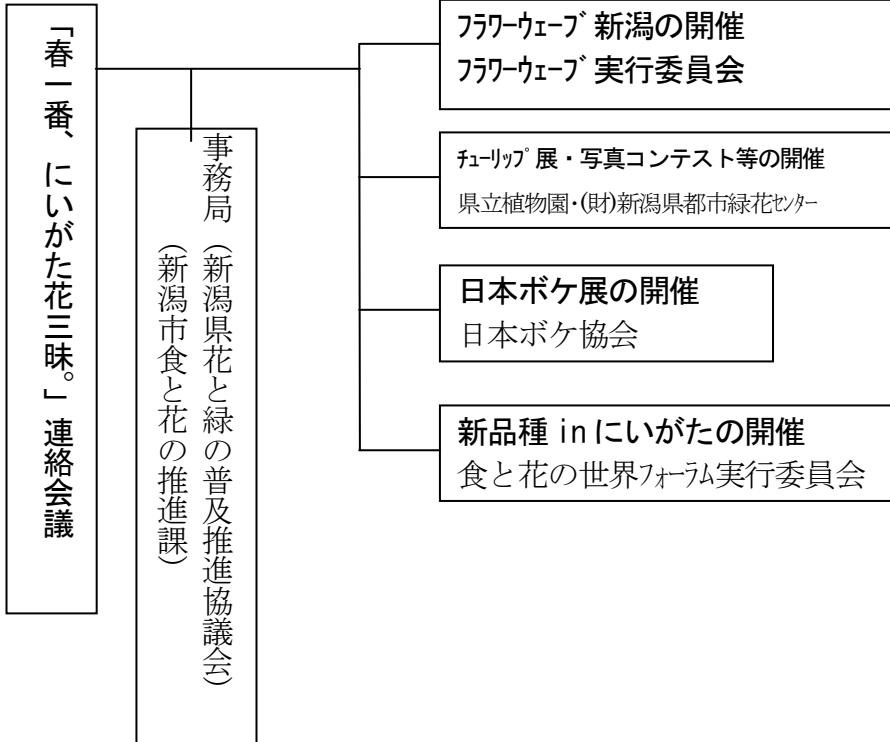


### Ⅲ 平成22年度花きのネットワーク構築モデル地区事例

#### 4 「春一番、にいがた花三昧。」連絡会議（新潟県）

(1) 連絡会議	①目的	新潟県内の花イベントが連携すると共に、生産者、小売店等が連携し、県内外に『新潟の花』をPRする。
	②構成メンバー	新潟市食と花の世界フォーラム実行委員会 新潟県花と緑の普及推進協議会（市場、小売団体、生産団体の組織） フラワーウェブ実行委員会（市場、小売団体、生産団体の組織） （財）新潟県都市緑花センター 新潟県立植物園 日本ボケ協会
	③開催実績	9月26日～9月27日 東京新潟県人会 100周年記念イベント出展 9月27日～10月29日 ロゴデザインの公募 1月27日 花き産業関係者交流会 3月11日～3月13日 「春一番、にいがた花三昧。」開催
(2) 連携のテーマ	「春一番、にいがた花三昧。」と題し、別々の日に開催されていた新潟の春の花イベントが連携して同日開催し、新潟の春を演出するとともに、花き関係者の交流を図り、新潟の花をPRする。	
(3) 連携の活動内容	<p>1. 「春一番、にいがた花三昧。」連絡会議の設立・連絡会議の開催 上記、構成メンバーによる連絡会議を設立し、花イベントの連携開催や花き関連産業の連携強化等の検討を行った。</p> <p>2. 東京新潟県人会 100周年記念イベントでの県産花きのPR 4万人以上の来場者を集めたこのイベントにおいて、新潟県産の切花、花木、球根を展示し、来場者にPRを行った。（別添1を参照）</p> <p>3. 「春一番、にいがた花三昧。」のイベントロゴデザインの一般公募 3月11日～13日の3日間開催した花の連携イベント「春一番、にいがた花三昧。」のイベントロゴデザインを一般公募した。出品数は77点にもおよび、3点を入賞作品として選出し大賞に選ばれた作品は、のぼりやチラシ等で使用した。（別添2を参照）</p> <p>4. 花き産業関係者交流会 花き産業関係者を幅広く参集し、千葉大学園芸学部教授安藤敏夫氏による基調講演やパネルディスカッション、新潟県内の花き関連団体の紹介を行った。（別添3を参照）</p>	

	<p><b>5. 「春一番、にいがた花三昧。」の開催</b></p> <p>3月11日から3月13日までの3日間、フラワーウェーブ新潟（新潟ふるさと村（新潟市中央区））、花の新品種 in にいがた・チューリップ展（新潟県立植物園（新潟市秋葉区））、日本ボケ展（うららこすど（新潟市秋葉区））の3会場で行われた、新潟県産花きをPRする花イベントを同日開催し、各会場を結ぶシャトルバスの運行やクイズ&amp;スタンプラリーの開催などを行った（別添4を参照）。</p>
<p><b>(4)スケジュール</b></p>	<p>7月8日 第1回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会議の設立について</li> </ul> <p>7月16日 第2回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携イベントおよび今後の計画について</li> <li>・イベントロゴの募集について</li> </ul> <p>8月18日 第3回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントロゴの募集について</li> <li>・東京新潟県人会 100周年記念イベント出展について</li> </ul> <p>9月14日 第4回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントロゴの募集について</li> <li>・東京新潟県人会 100周年記念イベント出展について</li> </ul> <p>9月25日～26日 東京新潟県人会 100周年記念イベント出展</p> <p>9月27日～10月29日 イベントロゴの募集</p> <p>10月14日 第5回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントロゴの審査方法について</li> <li>・シャトルバスの運行について</li> </ul> <p>11月10日 イベントロゴ審査会</p> <p>11月10日 第6回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントのPR方法の検討</li> <li>・花き産業関係者交流会の開催方法について</li> </ul> <p>12月1日 第7回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花き産業関係者交流会の開催方法について</li> </ul> <p>1月19日 第8回連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花き産業関係者交流会の最終調整</li> <li>・PR方法について</li> </ul> <p>1月27日 花き産業関係者交流会の開催</p> <p>3月2日 第9回連絡会議</p> <p>3月11日～13日 「春一番、にいがた花三昧。」の開催</p>

<p>(5) 実施体制</p>	 <pre> graph TD     A[「春一番、にいがた花三昧。」連絡会議] --- B[事務局 (新潟県花と緑の普及推進協議会) (新潟市食と花の推進課)]     B --- C[フラワーウェブ新潟の開催 フラワーウェブ実行委員会]     B --- D[フェリッパ展・写真コンテスト等の開催 県立植物園・(財)新潟県都市緑花センター]     B --- E[日本ボケ展の開催 日本ボケ協会]     B --- F[新品種 in にいがたの開催 食と花の世界フォーラム実行委員会] </pre>
<p>(6) 事業実施の自己評価と今後の課題</p>	<p>1. 「春一番、にいがた花三昧。」連絡会議の設立・連絡会議の開催</p> <p>○評価 イベント主催団体や花き関連団体、行政等により、連携しあう体制ができ、議論する場ができたことは、花き産業活性化に向けた一歩であった。</p> <p>○課題 連絡会議参加者は、概ね新潟市内の関係者となっていることから、新潟県内全体の生産者と小売・市場が一体となって花き振興を行う体制を整える必要がある。</p> <p>2. 東京新潟県人会 100 周年記念イベントでの県産花きの PR</p> <p>○評価 県外の来場者を含む多くの方に、「新潟の花」を PR することができた。また、新潟県産花きに対する感想や意見等を、直接消費者から聞くことができ、今後の花きの販売方法や PR 方法を検討する上で、大変有意義であった。</p> <p>3. 「春一番、にいがた花三昧。」のイベントロゴデザインの一般公募</p> <p>○評価 イベントロゴを一般公募したことにより、話題づくりができたことや各 PR 媒体での一体感が生まれ、効果的な PR が可能となった。</p>

	<p><b>4. 花き産業関係者交流会</b></p> <p>○評価 「普段、話す機会のない関係者と話すことができ、大変有意義であった」という意見や「関係者間で連携を図る活動をやらなければいけないことはわかっていたが、なかなか自分からは動けなかった」という感想もあり、関係者で連携する重要性を認識することができた。</p> <p>○課題 参加者同士の意見交換としては不十分なものがあつたため、次年度は交流会の内容を刷新して、多くの意見を交換できる場としたい。併せて、商談等を行う場を設けるなど小売と生産者によりメリットを感じてもらえるような開催内容を検討する必要がある。</p> <p><b>5. 「春一番、にいがた花三昧。」の開催</b></p> <p>○評価 事前の問い合わせが多く、当初は各会場共に来場者の増加が見込まれたが、3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」の影響により、関東方面、東北方面の来場者がほぼ皆無の状態となり、各会場共に3割以上来場者が減少し残念であった。 しかし、複数の会場を周遊していると見られる来場者も多く、また問い合わせも多かったことから、イベントに対して関心は高いと思われる。新潟県産花きをPRするには、効果的であったと思われる。</p> <p>○課題 連携イベントの中には、マニア向けのイベント内容となっているものもあり、初めての来場者にもわかりやすい説明、来場しやすい雰囲気作りが必要であると感じられた。また、生産者自らが消費者等にPRする場面が少なく、生産者のイベント参加が課題である。 今年は、準備期間が短く「にいがた花検定」(新潟の花きに関するご当地検定)などを行うことができなかつたことから、秋バージョンの連携イベントの検討と併せて、協議する必要がある。 また、長期的には連携イベント自体を1つの大きなイベントとして共同開催し、新品種やオリジナル品種の発表や商談等が行える場とするなど、消費者と共に花き産業関係者においてもメリットの大きいイベントとしていく必要がある。</p>
(7) その他添付資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「春一番、にいがた花三昧。」関連のチラシ</li> <li>・新聞広告等の写し</li> </ul>

(別添 1)

東京新潟県人会 100 周年記念イベントの取り組み

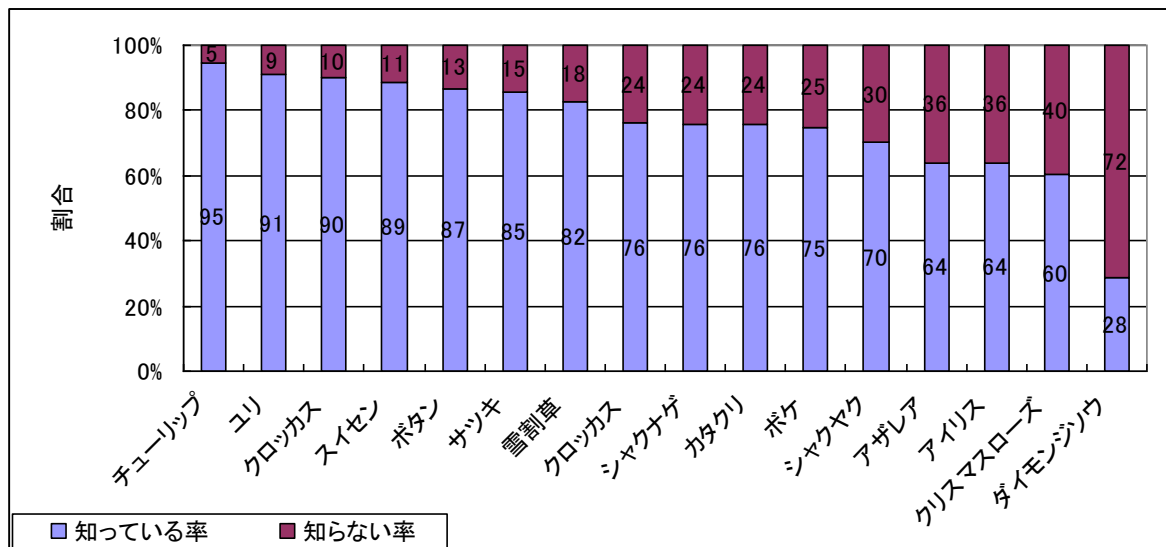
9月25日～26日の2日間、新潟市中央区の朱鷺メッセにおいて開催されました。会場では、各市町村のPRブースや県内企業のPRブースが設置され、また新潟県内のおいしい食べ物やお酒、特産品などを扱うお店が会場いっぱいに出展され、2日間の来場者は44,000人を数えました。

その会場において、新潟県の切花、花木、球根を展示し、また、花イベント等のパンフレットを設置して、新潟県産花きのPRを行いました。併せて、新潟特産の花きの知名度の調査や「春一番、にいがた花三昧。」の開催PRも行いました。

来場者からは、「新潟県は、米やお酒が有名で、花がこんなに多くの生産されていることは知らなかった」という感想や「チューリップといえば富山だと思っていたけれど、チューリップ切花は新潟県の生産額が1位とは知らなかった」などの感想が聞かれました。

また、出店したブースのエリアでは、販売が禁止されていたことから、来場者から「どこで買えますか?」といった質問も多く聞かれ、花きに対する関心の高さがうかがえました。

○新潟県特産花きの知名度（回答数：302）



<東京新潟県人会 100周年記念イベント>



ブースの様子①



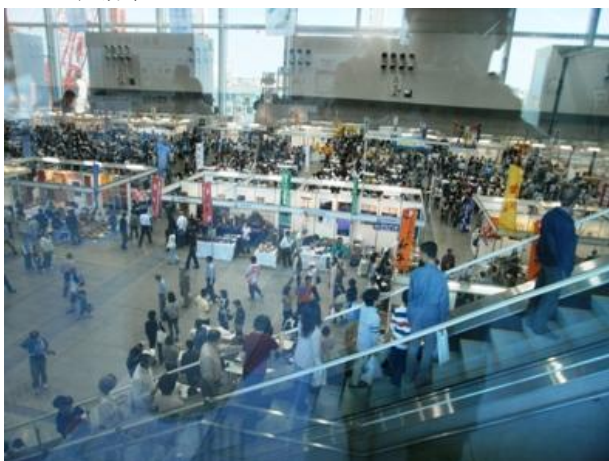
ブースの様子②



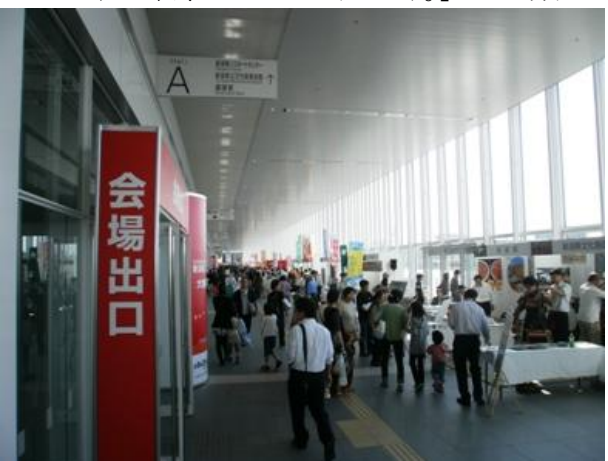
来場者



「春一番、にいがた花三昧。」PR景品



会場の様子①



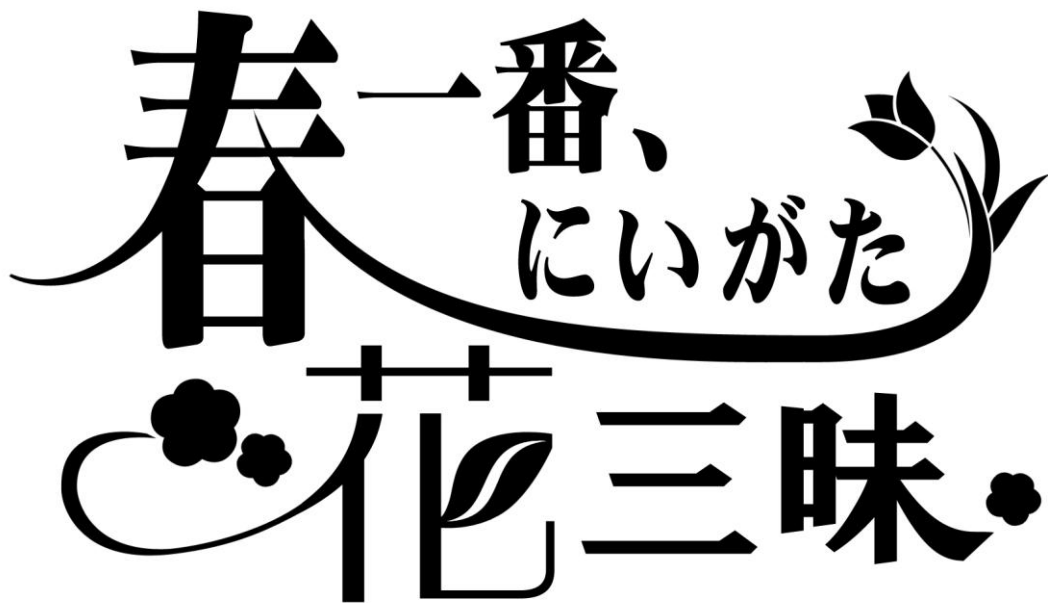
会場の様子②

(別添2)

「春一番、にいがた花三昧。」のイベントロゴの一般公募

9月27日～10月29日までの間、新潟県ホームページや各団体のホームページにおいて公募を行いました。その結果、県内外から77点の作品が出品され、11月10日の審査会において大賞、金賞、銀賞の3作品が決定されました。大賞に選ばれた作品は、「春一番、にいがた花三昧。」のイベント会場で使用したほか、テレビや新聞、チラシ等の宣伝・広告媒体では、必ずロゴを使用してPRを行いました。

○大賞受賞作品



(別添3)

花き産業関係者交流会

花き産業関係者の連携強化等を目的として、新潟県内の花き産業に関わる多くの関係者に声をかけ、交流会を開催しました。

開催当日は、90名ほどの参加者が集まり、新潟県内の花き関連団体の紹介や千葉大学園芸学部教授安藤敏夫氏による「花き産業の課題と展望」と題した基調講演、パネルディスカッションに耳を傾けていました。

安藤教授からは、無購買層（ゼロ花文化）へのPRや花文化創造の必要性、1000分の1構想の実現などが必要であると力強く講演いただき、参加者も大変興味深く聞き入っていました。

参加者からは、「花き産業関係者の連携をもっと強化する必要がある」との感想や、「このような交流会は続けていくべき」との意見をもらいました。今後は、より参加者が意見交換しやすい開催内容とし、併せて商談等を含めた効果的な内容とする必要があると思われます。



会長あいさつ  
会場の様子



安藤教授による基調講演



パネルディスカッションの様子



花き関連団体の紹介スペース

## 花き産業関係者交流会開催要領

### 1 開催趣旨

花き生産者、市場、流通業者、小売店等が一堂に会し、花き業界の課題等について情報共有し、花き業界がより一層連携しての花き産業の発展を図る。

### 2 テーマ

「にいがた花き産業の新たな取組み ～消費拡大に向けて～」

### 3 主催

「春一番、にいがた花三昧。」連絡会議

加盟団体：新潟県花と緑の普及推進協議会、食と花の世界フォーラム

(財)新潟県都市、(財)新潟県都市緑花センター、新潟県立植物園、日本ボケ協会)

### 4 開催期日・場所

平成23年1月27日(木) 13:00～17:00 三条ロイヤルホテル 末広の間

(〒955-0071 新潟県三条市本町3-5-25 電話：0120-34-8144)

### 5 参加費

資料代として500円

### 6 参集範囲・参加者数

花き関連企業、花き関連団体、市場、流通関係者、生産者、県、市町村等花き業界関係者

### 7 開催内容・日程

13:00 開会あいさつ

13:05 にいがた花図鑑発表

新潟で生産されている花きについて紹介するホームページの公開発表会

13:25 花き関連団体の活動紹介

花き関連5団体による活動紹介

14:10 基調講演

講師： 千葉大学園芸学部教授 安藤 敏夫 氏

演題： 「花き産業の課題と展望」

(15:10 休憩)

15:25 パネルディスカッション

パネリストに安藤教授及び業界関係者5名、コーディネーターに県立植物園倉重副園長をむかえ、新潟の花き産業の課題等について検討を行う。

○コーディネーター 新潟県立植物園 副園長 倉重祐二 氏

○パネリスト 千葉大学園芸学部 教授 安藤敏夫 氏

新潟県花木振興協議会 副会長 佐藤嘉久 氏

新潟県切花振興協議会 会長 森山英昭 氏

新潟県卸売市場協会(株)新植 社長 木村圭介 氏

新潟県花と緑の普及推進協議会 理事 石川 昇 氏

新潟県農林水産部経営普及課専門技術指導担当 小田正之氏

16:15 意見交換

17:00 閉会

## (別添4)

### 「春一番、にいがた花三昧。」の開催

#### 1 目的

新潟県内の花イベントの連携を図り、県内外の消費者、生産者、小売店等に「新潟の花」をPRする。

#### 2 主催

「春一番、にいがた花三昧。」連絡会議

#### 3 連携するイベント

フラワーウェーブ新潟 2011 (主催：新潟県・フラワーウェーブ新潟実行委員会)

花の新品種 in にいがた (主催：新潟市食と花の世界フォーラム実行委員会)

チューリップ展 (主催：新潟県立植物園)

日本ボケ展 (主催：日本ボケ協会)

#### 4 背景

- ・ 各イベントは、共に新潟県産花きを消費者や小売店等にPRすることを目的として開催しているが、すでに客層が固定化されており、新たな客層の誘客が必要であった。
- ・ 同時期に開催されているイベントにもかかわらず、それぞれで広報活動を行っていたため、効率が悪かった。
- ・ 短期間により多くの県産花きを見ってもらうことにより、PR効果を高める必要があった。
- ・ イベント連携により、花き産業関係者の連携の強化、県産花きの振興をより進める必要があった。

#### 5 事業内容と実施の状況

(1) 開催期間 平成 23 年 3 月 11 日 (金) ～平成 23 年 3 月 13 日 (日)

(2) 各イベント会場の来場者数

3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震によって、関東・東北方面の観光客の大幅な減少(新幹線運休)や地震報道により共同イベントの様子が一切放送・掲載されなかったことなどの影響により、土曜日を中心に来場者が減少し、昨年比 3 割以上の減少となった。

イベント名	今年の来場者数 (11 日～13 日の合計)	昨年の来場者数	昨年対比 (%)
フラワーウェーブ新潟 2011	12,519 人	19,363 人	64.7%
新品種 in にいがた	1,091 人	1,700 人	64.1%
チューリップ展	1,091 人	1,700 人	64.1%
日本ボケ展	未集計	未集計	—

(3) シャトルバスの運行

各イベント会場と JR 駅(新潟駅及び新津駅)を結ぶシャトルバスを 12 日、13 日に運行した。3 台のバスで運行し、各会場 1 時間に 1 本程度の運行とし、バスには新潟市内にあるエアリゾート専門学校の学生を添乗員として乗務させ、バスの運行に併せ各イベント会場の説明を行ってもらった。

問い合わせは多く寄せられたが、地震の影響により来場者が減少し、そのことに伴いシャトルバスの利用者も少な目となったと考えられる。

○シャトルバス利用者数

日付	利用者数
3月12日(土)	57名
3月13日(日)	137名
合計	194名

#### (4) クイズ&スタンプラリーの開催

4つの各イベント会場に設けた、新潟県産花きにまつわるクイズに回答してもらい、それぞれの場所でイベント内容にちなんだ花を用いたスタンプを押印してもらった。

複数会場をまわり、クイズに正解した参加者には、マレーシアペア旅行券などの賞品が送られるなどの特典もあり、新潟県産花きの理解促進を図ると共に、各イベント会場を訪れるきっかけになった。

#### (5) イベントPRの連携

昨年までは、イベントPRを各イベントごとに行っており、周知を行う範囲に限りがあつたと共に、PR先も固定化される傾向にあつた。そのことから、イベントロゴを一般公募により決定し、各団体が行うPR媒体(チラシ、公告など)に必ずロゴと「春一番、にいがた花三昧。」のイベント内容を掲載し、一体的にPRした。



フラワーウェーブ新潟 2011 会場の様子①  
(フラワーデザインコンテスト)



フラワーウェーブ新潟 2011 会場の様子②  
(チューリップ切花コンテスト)



フラワーウェーブ新潟 2011 会場の様子③  
(園芸福祉のひろば)



フラワーウェーブ新潟 2011 会場の様子④  
(保育園児の合唱)



花の新品種 in にいがた会場の様子



日本ボケ展会場の様子①



日本ボケ展会場の様子②



チューリップ展会場の様子



クイズ&スタンプラリーのブースの様子